

議会だより

No. 100

令和7年11月
2025.11

のせ

決算常任委員会報告・・・・・・・・・・ P2

9月定例会議報告・・・・・・・・・・ P6

一般質問・・・・・・・・・・ P8

「議会だより」記念すべき創刊100号・P12

令和6年度 能勢町会計決算を認定 決算常任委員会報告

9月17日・19日・22日・24日 開催

決算常任委員会に付託された「令和6年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定」については、9月17日、19日、22日に委員会を開催し、決算内容を審査しました。

採決の結果、賛成多数で認定すべきものと決定しました。

主な質疑応答は、次のとおりです。

◇ 令和6年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定

認 否

認定

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子
○	○	○	○	○	○	×	○	×	委員長

注:委員長は採決に加わりません。

総務部（総務課・理財課・住民課）、出納室、議会事務局

問 公共交通の維持・継続を図るための補助、乗合タクシーの利用状況等を問う。

答 令和6年度も、阪急バスの赤字分に対し補助金を支出している。

乗合タクシー停留所は令和6年度末時点で123ヶ所あり、令和7年4月からは全域に運行エリアを拡大し、145ヶ所となっている。そのうち56ヶ所の停留所が1度も利用されていない状況である。

また、1便当たりの利用者数は1.18人で、予約の際に若干時間をずらすなど、乗り合いをお願いしている状況である。引き続き、行政、交通事業者、町民の三位一体で考える必要がある。

問 地域おこし協力隊の現在の活動について問う。

答 現在は移住希望者に対して、町の魅力発信や、空き家相談等を行う協力隊と物産センターと連携した協力隊の2名が活動中である。物産センターではブランド野菜の販売促進や、関係団体との連携による農業振興に向けた取組みを行っている。他、大阪・関西万博への出展などの活動を行った。

問 電算管理事業のガバメントクラウドについての進捗を問う。

答 現行システムから標準化の移行を行うと、現状との比較で費用が増加するが、普通交付税に算入され、差し引きゼロではないかと思込みを立てている。
今年度中の移行に向けて取り組んでいる。

問 消防団再編に向けての取組みと基本的な再編方針について、また、令和6年度消防団出動回数を問う。

答 再編委員会を令和5年度6月から16回開催している。現在団員数は408名。
再編後は、通常消防団だけでは対応できない場合に備えて、機能別消防団を設けるかたちで408名と同等の人数を確保する考えである。
今後、消防団再編委員会の報告はホームページ等で周知していく。また、火災、警戒出動等合計25回、延べ566名が出動した。

福祉部（福祉課・健康づくり課）

問 成人歯科検診の受診率が低いことに対してどのように改善を図っているのか。また、能勢町以外の歯科医院でも受診できないのか問う。

答 令和7年度から20歳以上の偶数年齢の方へ対象範囲を拡げ、町内の歯科医療機関以外に淨りシアターでの集団検診でも歯科検診が受けられるよう取組みを始めた。今後生活圏である他市町でも受診が可能かどうか調査していく。

問 保育所整備事業のスケジュールと、保育所移転基本計画に住民の意見が反映されているのか問う。

答 令和7年度は施設の解体に向けた設計業務、用地の測量を行っている。その後令和8年度中には、施設の解体撤去工事及び新保育所の基本実施設計にも着手する予定である。また、基本計画には、住民からの意見を聴取し生かしている。今後は保育士が日々の保育の中で感じる子どもや保護者のニーズに対応できるように、様々な施設を研究し、新保育所整備に取り組んでいきたい。

問 家庭教育支援チーム「ほっこり」は他の自治体からも研修に来られ注目されている。今後教育委員会との連携が必要だと思うが、この事業の経緯と成果を問う。

答 能勢町における子どもの貧困という課題を解決するため平成29年度に事業を開始した。令和6年度は年長から6年生までのおよそ220軒の対象家庭のうち、約9割にアプローチできた。今後も教育現場と教育委員会、福祉とが連携し情報共有をして取組みを進めていく。

問 出産子育て応援交付金事業の支援内容と対象者について問う。

答 安心して出産子育てができるよう、妊娠時及び出産後に面談を実施することで育児生活を適時支援するとともに、母子手帳交付時に「出産応援ギフト（5万円）」、出産後の赤ちゃん訪問時に「子育て応援ギフト（5万円）」を給付。また、令和7年度からは出産子育て応援給付金は見直され、妊婦のための支援給付金へと制度改正されたことで、死産や流産の場合も支援対象となる。

まちづくり推進部（みどり環境課・都市整備課・魅力創造課）

問 農空間整備調査研究事業の地域計画の策定状況と今後について問う。

答 農家にアンケート調査を実施し、区長や実行組合長への説明や要望を踏まえ、10年後の地域農業の計画を40地区すべてで策定した。今後は大規模農家の法人化、担い手の集約、大区画化などの変更改定は、順次地域計画を見直す際に対応して行きたい。また5年後10年後跡継ぎがいない状況の中で、新規就農者が参画し、将来的には中心になってもらえるよう法人化を提唱していく考えである。

問 獣害対策の現状と今後の対策を問う。

答 令和6年度の捕獲頭数は、シカが1084頭、イノシシが141頭、アライグマは221頭だった。シカやイノシシは町で処分しているが、個人で解体処分していることもあり、町独自の処分率は約43%となっている。対策としては基本的に捕獲か防除になる。アライグマは、捕獲檻を48台に増設したことで貸出しの待機がなくなった。今後は一軒でも複数貸出しできるように検討したい。また防除柵の申請は21件あり、今後も町単費での購入補助は行っていく。その上で里山の緩衝帯を保全していく必要があると考える。

問 河川維持費について今後の取組みを問う。

答 近年、河川内に木が生えている場所が増えている。河川整備の要望もあり次年度以降は、道路とともに河川にも重点を置いた予算組みをして行きたいと考えている。

問 ふるさと応援寄附金の実績及び、令和6年度が減額した要因と今後の取組みについて問う。

答 実績として寄附金総額から経費と町民が他市町村に寄附した額を差し引くと、680万円余りがプラスとなっている。主力の返礼品がなくなったことが、大きく減額した要因である。現在はサイダー類と、ジビエを活用したペットフードも人気商品となっている。今年度中には町内で体験してその場でふるさと納税という形のサービスを検討し、コト消費を充実させたい。

問 産業立地促進事業の進捗状況について問う。

答 事業を円滑に進めるために権利者の約8割の同意を目標に現在進めている。予定する対象区域の面積は24ヘクタールで、測量は10月から着手する予定で境界、高低差等を測量・設計していきたい。次のステップとして農業をしたい方は移転しその区域は農振農用地として利用する。市街化区域として決まったところに企業を誘致する。

教育委員会（学校教育総務課・生涯学習課）

問 学校給食無償化事業について問う。

答 子育て世帯の経済的負担を軽減する目的で実施している。財源は過疎債を活用しており、給食無償化による他のサービスや住民負担への影響はなく、給食の質も以前と変わらないものを提供している。

問 アフタースクールについて問う。

答 令和6年度より教育委員会の指導主事が3名体制となり、その1名が積極的に関わられるようになった。しかし、予算に対して定員は20人に限られているため、今後の課題と認識している。

問 B&G 海洋センターの今後について問う。

答 築30年以上経過し、施設の老朽化が目立つが、利用者に迷惑が掛からないようその都度、修繕対応している。今後どうしていくかは、事業計画や財源の確保等考えていく必要がある。

問 地域高2留学事業の改善点等について問う。

答 令和5年度から取り組んでおり、アドバイザーの意見も取り入れ、受入れ体制やPRの改善に努めたが、留学生の受入れにつなげることはできていない。地域高2留学は国の事業でもあり、内閣府に対して機運の醸成を図るよう要望している。

問 生涯学習センターの利用状況と、移転改修に係るスケジュールを問う。

答 研修室は138件(2235人)和室は188件(1303人)会議室は112件(668人)である。現在、基本構想及び基本計画の策定中で、令和8年12月までを業務期間としている。その後、令和8年～9年にかけて基本・実施設計を行った後、改修工事に取り掛かる予定である。

決算常任委員会に付託された令和6年度能勢町特別会計歳入歳出決算及び、事業会計決算については、9月24日に委員会を開催し、決算内容を審査しました。

採決の結果、認定すべきものと決定しました。主な質疑応答は、次のとおりです。

特別会計（国民健康保険特別会計・後期高齢者医療特別会計・介護保険特別会計） 国民健康保険診療所特別会計・下水道事業会計

■能勢町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定■

問 国保加入者に健康増進支援事業として1人1万5千円を給付したことは評価するが、令和6年度で終了している。基金と繰越金で約2億円の黒字会計になっているのになぜ継続しないのか問う。

答 安定的な運営をする上で一定の余裕が必要と考えている。

■能勢町介護保険特別会計歳入歳出決算認定■

問 令和6年に開所した看護小規模多機能型居宅介護事業所（看多機）の問題点と対応策を問う。

答 看多機に登録するには、ケアマネージャーを変更しなければならず不安の声があるが、制度上改善は困難と認識している。
利用者が少ない事については、オレンジカフェなどを通じて宣伝していきたい。

■能勢町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定■

問 高齢者の負担軽減のために督促手数料の廃止や廃止を検討する自治体が4割もある。本町の考えを問う。

答 その件は把握しているが、本町では検討していない。

■能勢町国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定■

問 今後の診療所の在り方について問う。

答 将来困らない医療体制のために、市立池田病院などと連携を密にして関係づくりを心掛ける。

■能勢町下水道事業会計決算認定■

問 今後、下水道料金を上げざるをえないような状況になってくるのではないかと問う。

答 現状の経営状況では事業維持が難しいと考えている。今後、近隣自治体との広域化や事業所と一般家庭の負担割合の見直しを考えていく。

◇令和6年度能勢町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	認定多数
◇令和6年度能勢町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	認定多数
◇令和6年度能勢町介護保険特別会計歳入歳出決算認定	認定多数
◇令和6年度能勢町国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定	認定全員
◇令和6年度能勢町下水道事業会計決算認定	認定多数

予算常任委員会報告

9月16日 開催

委員長 井上 加奈子

予算常任委員会に付託された「令和7年度能勢町一般会計補正予算(第3号)」及び「令和7年度能勢町介護保険特別会計補正予算(第1号)」について、委員会を開催し予算内容を審議しました。審議の後、討論はなく採決の結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

主な質疑は、次の通りです。

◇令和7年度能勢町一般会計補正予算(第3号)

ふるさと応援寄附金業務

問 ふるさと応援寄附金業務の中間事業者の変更について問う。

答 現在、単年度契約をしている中間事業者の業務範囲は、在庫管理と配送管理までだが、商品開発やプロモーションについても対応していく必要があるため変更を考えている。新しい事業者はプロポーザル方式で公募、10月上旬に審査し、債務負担行為により令和10年3月31日までの契約を締結したい。

農地災害復旧費

問 復旧事業費について、詳細を問う。

答 8月10・11日の豪雨による農地災害(杉原地区)の復旧にあたり、国の災害復旧事業を受けるための測量設計にかかる費用である。

消防団ポンプ車両の無線機設置委託料

問 非常備消防費の機器設置委託料について問う。

答 国から無償貸付を受けたポンプ車両(1台)には無線機が設置されていなかったため、新しい無線機と、その設置にかかる費用と、豊中市から譲受したポンプ車両(1台)に、既存の機動隊車両から無線機を付け替えるための費用である。

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	委員長

注:委員長は採決に加わりません。

◇令和7年度能勢町介護保険特別会計補正予算(第1号)

償還金について

※償還金とは、町が国や府から受けた介護保険事業の交付金のうち、予算額に達しなかった分を返還するものです。

問 国・府への償還金の要因を問う。

答 在宅サービス数が見込みより少なかったことが要因の一つである。

問 認定されている人が経済的な理由により、在宅サービスを利用できなかったのか。

答 利用者から「利用上限を超えて使えない」「1割の自己負担が高いから使えない」という声は届いていない。

問 ヘルパー不足等により在宅サービスが提供できなかったのか。

答 近隣市町の事業所を使いながら必要なサービス提供ができていると考えている。年度により、償還金額にばらつきが出るのは制度上想定される。

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	委員長

注:委員長は採決に加わりません。

令和7年 能勢町議会9月定例会議報告

9月10・11・12・25日開催

9月定例会議には、報告1件、条例2件、補正予算2件、決算認定6件、その他1件、議会議案1件の合計13件が提出されました。賛否が分かれた9件の案件については、賛成多数で可決・認定され、その他の案件は賛成全員で可決されました。

すべての提出案件については、能勢町ホームページ「能勢町議会」からご覧いただけます。

◇職員の勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部を改正する条例について

国において仕事と育児の両立支援制度の利用に関する職員の意向確認等の措置が義務付けられたことに伴い、所要の改正を行うもの。

◇職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

地方公務員の育児休業等に関する法律が改正されたことに伴い、部分休業制度が拡充されることから所要の改正を行うもの。

◇令和7年度能勢町一般会計補正予算(第3号)

補正額 1,662万円

(主なもの)

・介護保険特別会計繰出金	181万円
・森林環境譲与税基金積立金	406万円
・町営住宅管理基金積立金	242万円
・非常備消防費(無線機器設置費用)	627万円

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

◇令和7年度能勢町介護保険特別会計補正予算(第1号)

補正額 2,540万円 (過年度精算による返納金等)

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

◇令和6年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

【反対討論】 難波 希美子

予算に対しての成果の検証に対して、的確な回答がなかったことが多々見受けられた。

また、福祉の分野ではひとり一人の思いを尊重する進め方をしているのに対して、ハード事業などは住民の意見としてアンケートやパブコメの手法が多く、生の声を十分に反映させていたのかという疑問もある。子ども施策ではすっぽりと抜け落ちている年代もあった。

一部の施策において、心ある丁寧な予算の執行がなされていたのかという疑念が残り、この決算認定に対し、反対する。

◇令和6年度能勢町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

【反対討論】 中西 顕治

基金を活用し、被保険者1人当たり1万5千円の給付が実施されたことは、住民負担の軽減策として評価するものである。しかし、大阪府の府内統一保険料方針に従った結果、本町住民に全国的にも高水準の保険料を強いる制度となっており、低所得世帯が多数を占める本町の実情に全くそぐわない冷酷かつ不合理な仕組みである。

物価高騰と経済停滞の下で住民に過重な負担を押し付けるこの制度は、まさに「住民いじめ」であり、断じて容認できるものではない。住民の健康と生活を守る立場から、公費負担の大幅な引き上げを国・府に強く求めるとともに、この決算認定に反対する。

◇令和6年度能勢町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

◇令和6年度能勢町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

【反対討論】 中西 顕治

第9期計画での介護保険料引き上げは、低所得高齢者に新たな負担を課すものであり、看過できない。また、国の訪問介護基本報酬引き下げに対して、利用者や事業所への配慮が見られず、深刻化する介護人材不足に対応できていない。処遇改善や人材確保の具体策がなければ、地域の介護体制は一層脆弱化し、介護を受ける住民の権利が損なわれる。介護保険制度を持続可能にするためには、国・府に対し公費負担の大幅な引き上げを強く求めるべきであり、住民負担増に依存した制度運営は限界である。よって本決算認定に反対する。

◇令和6年度能勢町国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定について

賛成全員

◇令和6年度能勢町下水道事業会計決算認定について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

◇能勢町過疎地域持続的発展計画の改定について

計画期間を令和7年度末に終えることから、引き続き、国からの特別な財政支援等を受けるため本計画の改定に必要な手続きを進めるもの。

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

◇今こそ選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書について

賛 否

原案可決

森田 則子	川口 省子	中植 昭彦	大西 則宏	岡田 康司	畠中 勝身	岡本ひとし	難波希美子	中西 顕治	八木 修	井上加奈子	平田 要
×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	議長

注:議長は採決に加わりません。

一 般 質 問



町民のみなさんの生活を、より良いものにするため、町に対して質問を行いました。主な内容をお知らせいたします。

- P8 …… 畠中 勝身
P9 …… 岡田 康司、井上加奈子
P10 …… 中西 顕治、難波希美子
P11 …… 川口 省子、八木 修

一 般 質 問



畠中 勝身

① 町道ののり面の今後 ② 空き家の実態調査

問 高齢社会といわれる現在、町は報奨金を支出し草刈り作業等をしているが、高齢になればのり面の作業が難しくなってくる。町として、今後どのように考えているか問う。

答 各地域で協働の取り組みを実施し、維持修繕には原材料支給、除草作業には報奨金を支出している。高齢化等で実施が困難な状況になった場合は、相談してもらいたい。

問 能勢町は田畑が多く、のり面の除草も大切と考える。境界の明示も必要と思うが、どう考えるか。

問 空き家の実態調査を問う。

答 現在調査しており、この調査の結果に基づき空き家対策計画を定めていく。

問 町道沿いの草刈りをするか。

答 町道沿いの草刈りをするか。

問 町道沿いの草刈りをするか。

答 町道沿いの草刈りをするか。

問 町道沿いの草刈りをするか。

答 町道沿いの草刈りをするか。

問 町道沿いの草刈りをするか。

答 町道沿いの草刈りをするか。

問 町道沿いの草刈りをするか。

答 町道沿いの草刈りをするか。





岡田 康司

防災・災害

(消防団再編・河川の雑草、樹木)

消防団再編

問 消防団が再編され、

地区との関係性が変化するが、行政としての考えを問う。

答 再編案の最終取りまとめが行われている。

再編後の活動は分団単位の活動となる。12月区長会において、内容等説明を行う予定である。

河川の雑草、樹木

問 地区が管理している

消火栓ボックスの中のホースが経年劣化しているが、行政として何か対応できないか問う。

答 まずは、協働事業交付金を活用して修繕をお願いしたいと考える。

問 消防団再編委員会の

取りまとめが、町に提出されると思うが、再編に

伴う行政のスケジュール

について問う。

答 条例等が可決されたら広報等でお知らせをする。分団単位の車庫等は個別に協議している。

費用負担等は消防団の方からも再編に伴う要望等を踏まえて検討をしていると聞きたいと考える。

問 河川の雑草、樹木が

茂っている中、雨量が多い時に、河川の近隣住民の方は氾濫などを危惧されていると思うが、町の管轄する河川管理について問う。

答 町管理の河川等については、現地確認を行った上で必要に応じて雑草、樹木の除去等の対応をおこ

なっている。

問 町の管轄でない河川

についても、住民の声はまず町に届くと思うが、町として大阪府へ働きかけをしているのか問う。

答 府管理の河川等は河川管理者が点検、確認の上、対応していると聞いている。



一般質問



井上 加奈子

空き家対策と、これからの移住施策

問 空き家対策のビジョンを問う。

答 能勢町の物件に新たな価値や特殊な価値を見出し、移住を希望する人がいる。そのような移住希望者と空き家を結びつけるため、不動産業者ではなく、町がコーディネーターの役割を担い、有効活用できる家は活用しようという方向に、住民の意向を導くような施策をしたい。

問 「能勢町空き家等対策計画」の見直しについて問う。

答 現行計画（平成30年2月策定）は、地域住民の生命・財産の保護と、生活環境の保全、空き家の利活用促進を目的としているが、所有者の意

向が不明なため施策が立てられず、利活用については弱い計画である。今年度、実態把握調査を実施し、空き家の把握、状態確認、所有者への聞き取りを通じて、計画を見直す。

問 空き家の実態把握調査の方法と目的を問う。

答 現在、水道メーターと外観調査に基づき、約800件を空き家として調査を行っている。今後、所有者へアンケート調査を実施し、使用実態、管理状況、今後の意向調査をする。

問 現在は居住している

が、近い将来には空き家の調査が必要ではないか。

答 個人財産の引き継ぎは高齢者の終活に関わる問題であり、空き家対策におけるアンケート調査では難しい。

問 移住相談窓口について、新たな体制の構築が必要ではないか。

答 物件の売買調整は難しく、業者の利益が少ないため、総務部にコーディネーターや定住支援員という形で調整役を設置したい。





中西 顕治

農業振興施策

米の供給不足と価格高騰

問 昨年から続く米の供給不足や価格高騰を町はどう認識しているか。

答 国の分析では高温障害や需要増、備蓄米放出の遅れが要因。町内でも価格は高止まりしている。

問 学校給食への影響は。

答 米については100%能勢産を使用している。大

阪北部農協から優先供給

の回答を得ているが、来

年度は予算上振れを想定

している。

問 国の食料安全保障や担い手支援の方針に対し、町はどう対応するか。

答 水田活用交付金、新規就農支援、鳥獣被害対

策などを活用し、法人化

を促して増産を図る。

問 中山間地域等直接支

払は活用しているか。

答 現在は未活用だが、

法人化の進展に合わせて導入を検討する。



学校給食地産地消事業

問 学校給食の地産地消

推進事業の進展は。

答 6月に「能勢町学校

給食地産地消推進協

会」を設立。特別栽培・

有機農産物の導入を協

議中。12月8日に能勢産の

大阪エコ農産物を使った

給食を実施予定。

問 大阪エコ認定の拡大

支援は。

答 直販協議会の会員に

申請してもらえよう協

議会でも検討する。

問 増産の可能性はある

のか。

答 耕作可能面積はある

が担い手不足が制約。法

人化と担い手確保で対応

したい。

一般質問



難波 希美子

移住・新規就農の窓口

問 移住・新規就農者の

問合せ件数は。

答 移住希望者と認定新

規就農者相談数は、

2022年は46件と3件。

2023年は38件と7件。

2024年は39件と3件。

問 移住についての窓口

はどうなっているのか。

答 空き家バンクに登録

してもらい、個々に情報

提供を行っている。

問 道の駅の観光協会窓

口に移住パンフを配架し

てはどうか。

答 対応する。



- ① 移住・新規就農の窓口
- ② 環境基本条例・環境基本計画
- ③ 宿野四区・大里・柏原地区の企業誘致

環境基本条例・計画

問 環境基本条例や計画

の効果を問う。

答 環境保全施策の基本

的な考えと推進を担って

いる。

問 今、住生活の安心を

おびやかす案件はあるか。

答 現在、騒音による環

境基準に抵触する事案が

一件あり、法令等に基づ

き対処していく。

問 罰則規定付きの条例

や計画を持つ自治体もあ

る。検討出来ないか。

答 他自治体の条例など

も確認してみる。



宿野四区・大里・

柏原地区の企業誘致

問 事業化検討アドバイ

ザーとまちづくり協議会

との協定書は協議会の会

員に配布するのか。

答 配布しないが、閲覧

は可能としている。

内容は、理事会で承認を

得ており、まちづくりだ

よりも掲載する。

問 まちづくり協議会総

会で、委任状なし欠席の

方の意向はどう判断して

いるのか。

答 出欠確認で、意向を

確認するものではない。

問 今後の窓口、事務局

体制はどうなるのか。

答 今まで通り町が事務

窓口を担う。



川口 省子

高齢者の居場所づくり ～社会参加で心身ともに 健康寿命の延伸を～

問 参加者が減少傾向にあるいきいき百歳体操の今後の方策について問う。

答 新規利用者を増やしている事例など参考に、地域の皆様と一緒に考えていきたい。

問 高齢者だけではなく、健康づくりのため全世代誰でも参加できることを周知してはどうか。

答 周知について工夫をしていきたい。

問 オレンジカフェの今後の展開について問う。

答 現在3か所で開催。更に多くの地域で立ち上げられるよう支援していきたい。

問 カフェへの参加と開設を促す両面についての周知が必要ではないか。

答 オレンジカフェの趣旨や開催場所、開設のための助成金制度など広く周知するように改めていきたい。

問 広く展開されるようになった時には、オレンジカフェマップの作成をお願いしたい。

答 参考にさせてもらう。



問 一人暮らしの方の見守り事業、緊急通報装置は現在固定電話回線仕様だが、今後固定電話を持たない方の対応が必要になるのではないか。

答 現在約500m間隔で押さえている停留所を増やすことはできないが、停留所の移動等あれば相談してもらいたい。

答 近隣の市町の取組みを参考に、広く対応できるように研究していきたい。

問 今年度末閉館する、ふれあいセンターで現在活動しているボランティア団体の今後の活動場所についてどのように考えているのか問う。

答 保健福祉センターでの対応を検討中である。

問 人と会う、また出かけることは健康寿命の延伸には欠かせない。そのためにも乗合タクシーの更なる利便性の向上、停留所の追加はできないものか。

答 現在約500m間隔で押さえている停留所を増やすことはできないが、停留所の移動等あれば相談してもらいたい。

一般質問



八木 修

① 町政運営 ② 防災対策

問 公約をどのように認識しているか問う。

答 住民との重要な約束であり、任期中に着実に実行する。

問 人口減少について問う。

答 働くところがない、店舗や医療施設がなく生活に便利が悪い、通勤通学に便利が悪いと認識している。

問 米騒動を受け農業振興について認識を問う。

答 農業に初めて日が当たり、農業を担う者を支援するとともに、持続的で増産を担える法人化に取り組む。

問 公約にはない産業誘致の用地計画を問う。

答 地域活性化は魅力あるまちづくりの一環で、10年先を見据えた継続事業。製造業を中心に誘致し、技術継承や長期雇用が考えられる。

問 避難所の空調対策を問う。

答 13か所のうち6か所は空調が完備。7か所は冷風機等対応。

問 福祉マップを改定したが、どのような傾向かを問う。

答 町が避難行動要支援者名簿を作成したが、要支援者のうち独居の方が増加傾向にある。

問 2018年の西日本豪雨での被害状況を問う。

答 避難所6か所開設し、896名が避難。被害件数は768件。

被害件数768件の内訳は、住宅60棟、非住宅20棟、土木被害490か所、農林被害198か所。

避難所	6カ所開設		
避難者数	896名		
被害件数 768件	{	住宅被害	60棟
		非住宅被害	20棟
		土木被害	490か所
		農林被害	198か所

「議会だより」記念すべき創刊100号！

町民の皆様のおかげで議会だよりも記念すべき100号を発刊するに至りました。創刊1号は今から25年前。国や各地方自治体で、国民・住民の知る権利を尊重し、施策等を明らかにするという情報公開制度の導入が開始されることになり、本町では平成11年（1999年）7月にこの制度に関する条例が施行。更には「議会改革」の一環として、町民の皆様には議会の動きを少しでも知っていただくために「議会だより」を発刊することになりました。

創刊1号は平成12年12月に白黒に近い2色刷りで発刊。50号の頃にはより手に取っていただきやすい鮮やかな2色刷りとなり、最近では表紙や裏表紙にカラーが使われるなど紙面づくりの変遷にも歴史を感じます。

この度節目となる100号を迎え、今後も町民の皆様により一層わかりやすく議会の動きがお伝えできるよう、更に創意工夫を重ねながら「議会だより」の作成に取り組んでまいります。



— おしらせ —

令和7年能勢町議会12月定例会議は12月10日（水）から開会されます。詳細な日程は、決定次第ホームページなどでお知らせします。

編集後記

厳しい暑さもようやく和らぎ朝晩は過ごしやすくなってまいりました。能勢町では、おおさかのてっぺんフェスティバル開催で6年ぶりに花火が復活し、能勢の夜空に大輪が描かれました。

さて、今号は令和6年度決算認定等の審議内容になっています。能勢町の未来のために議員一人ひとりが行政と議論を重ねました。

「議会だより」は、記念すべき100号を迎えることが出来ました。これもひとえに町民の方々と共に歩んでこられたからだと思います。感謝いたします。更に号数を積み重ねていき、議会だよりが皆様の町政への関心を深めるきっかけとなれば幸いです。

皆様からのご意見やご要望などぜひともお寄せください。

広報特別委員会

委員長 畠中 勝身 副委員長 川口 省子
委員 森田 則子 岡田 康司 難波 希美子

発行／能勢町議会 発行責任者／平 田 要 編集／広報特別委員会 発行日／令和7年11月1日
〒563-0392 大阪府豊能郡能勢町宿野28番地
TEL(072)734-0151 FAX(072)734-2460
ホームページアドレス <http://www.town.nose.osaka.jp>

能勢町議会

